



INDEX

・鶏卵の需給見通し（令和7年9月）の公表について	1
・令和7年度 品目団体輸出力強化支援事業について	5
・第9期 家畜防疫互助事業にご参加を！	6
・令和7年度 鶏卵規格取引研修会を実施しました（中央鶏卵規格取引協議会）	7
・配合飼料供給価格の動向	8
・統計データ	9
・協会活動報告	10

鶏卵の需給見通し（令和7年9月）の公表について

令和7年9月25日に開催された、令和7年度第1回鶏卵の需給見通し検討委員会における議論を踏まえ、9月30日に鶏卵の需給見通しを公表しました。

鶏卵の需給見通し（令和7年9月）

日本養鶏協会HPに掲載しておりますので、ご覧ください。

[日本養鶏協会HP 鶏卵需給見通し事業](https://www.jpa.or.jp/stability/pdf/keiran202509_01.pdf)

https://www.jpa.or.jp/stability/pdf/keiran202509_01.pdf

○鶏卵の需給見通し（令和7年9月）の概要

1. 直近の鶏卵需給動向（令和7年上半期）

（1）供給状況とHPAI発生

令和6年シーズン（2024年秋から2025年初めにかけて）には、14道県で51事例のHPAIが発生し、約932万羽（うち採卵鶏約841万羽）が殺処分対象とされた。これは全国の採卵鶏飼養羽数の約6.5%に相当する規模である。特に、令和7年1月は肉用鶏を含め過去最多となる月間34事例が発生し、約648万羽（うち採卵鶏約587万羽）が殺処分対象とされたことが、供給に大きな影響を与えている。





(2) 需要状況

HPAIによる供給量の減少から、家庭用購入数量は減少傾向。加工・外食需要は、令和6年後半の加工メーカーにより積み増した凍結液卵等の在庫と外食産業における売上回復に支えられ堅調。

(3) 価格動向

卸売価格については、HPAIによる供給不足等で高止まりし、夏場にかけて緩和傾向が見られたものの、9月以降は月見需要により上昇し高水準で推移している。小売価格も卸売価格と同様に、高い水準で推移。

2. 今後の需給見通し（令和7年下半期～令和8年上半期）

(1) 供給

令和7年の国内鶏卵生産量は、令和6年を下回ると予想される。HPAI発生農場においては、採卵鶏の再導入が、令和7年内に7割強、令和8年上半期には約9割まで進むと見込まれており、供給量も回復してくる見込みである。

(2) 需要

家庭用消費では、小売価格が高値で推移する見込みとなっていることから、需要は軟調と見込む。食品加工用・外食産業用については、物価上昇等の懸念材料はあるものの堅調に推移し、特に外食産業では、秋の「月見」や冬メニューで需要の上振れ余地があるとみられる。

(3) 価格

令和7年内は、供給に不足感がある一方で、需要が堅調に推移し、価格は例年より高い水準で推移することが見込まれるが、令和8年年明けから春にかけて、生産量が回復し、需給が「緩やかに均衡方向」に向かうことで、価格も落ち着く見通し。

なお、令和7年シーズンのHPAIの発生状況によっては、需給バランスが不均衡となる可能性もあり、引き続き、注視する必要がある。

3. 今後の課題と対応方向

国内人口の減少等を踏まえた需要の拡大、また需要に応じた安定的な生産を行うことで、鶏卵の需給及び価格の安定を図るために必要な対応は以下のとおり。

① HPAI防疫体制の強化

「飼養衛生管理基準」等の徹底、分割管理の推進、本病の疫学的な原因究明の調査研究の加速、国内におけるワクチン接種の検討への参加等を業界一丸となり取り組むことで、HPAIが国内需給や鶏卵関係者の経営に及ぼす影響緩和対策を積極的に検討。

② 適正な価格形成

「食品等の持続的な供給を実現するための食品等事業者による事業活動の促進及び食品等の取引の適正化に関する法律」の成立背景を踏まえ、生産コスト等持続的な供給に要する費



用を反映した適正な価格による取引の推進。

③ 需要拡大（家計消費・中食・外食・インバウンド）

菓子・総菜・冷凍の各市場動向を踏まえ、“見える卵”と“見えない卵”の両面で利用を推進するとともに、我が国の人口減少を踏まえ、インバウンド向けの国内滞在時における体験・購買接点を強化し、帰国後の越境消費・輸出拡大に資する。

④ 更なる輸出の拡大

既存のマーケット（香港・シンガポール）における更なるユーザー開拓に加え、新たな商流の構築、現地の加工品ニーズをとらえた鶏卵製品の輸出拡大、輸出先国が要求する高度な衛生水準への対応等を推進。

⑤ 正確かつタイムリーな情報提供

生産に係る情報（生産量、輸入動向等）を加工メーカー、外食産業、小売店等へ提供する体制を検討。

⑥ 食料安全保障への対応

上記①から⑤に加え、緊急時における生産や流通の円滑化のための体制強化を並行して検討。

以上



鶏卵の需給見通しに関する検討会委員（五十音順・敬称略）

青木 郁雄	イオンリテール株式会社 食品本部 デイリーフーズ商品部長
市川 尚宏	三栄鶏卵株式会社 代表取締役社長
河内 友信	キューピータマゴ株式会社 購買本部 購買部 次長
工藤 哲平	東京鶏卵株式会社 代表取締役社長
榊田 裕計	株式会社ゼンショーホールディングス グループ MD 本部 畜産部 国産牛・ポーク・ポトリ・エッグ課 課長
設楽 弘之	一般社団法人 日本卵業協会 専務理事
渋谷 克彦	株式会社セブン・イレブン・ジャパン 商品本部 原材料・設備サポート チーフマーチャンダイザー
清水 章弘	一般社団法人 日本種鶏孵卵協会 理事
寺本 直人	J A 全農たまご株式会社 東日本営業本部 第 1 営業部 部長
信岡 誠治	元東京農業大学農学部畜産学科教授
林 義隆	協同組合 日本飼料工業会 参事
湯浅 琢磨	山崎製パン株式会社 購買本部 購買第一部 次長
齋藤 利明	一般社団法人 日本養鶏協会 会長
岡田 大介	一般社団法人 日本養鶏協会 筆頭副会長
元木 隆行	一般社団法人 日本養鶏協会 副会長
坂本 修三	一般社団法人 日本養鶏協会 元副会長
畠中 五恵子	一般社団法人 日本養鶏協会 会員 生産者
石井 馨	一般社団法人 日本養鶏協会 専務理事

【お問い合わせ】

業務第 2 部 Tel:03-3297-5508



令和 7 年度 品目団体輸出力強化支援事業について

海外における販路開拓活動 ～香港における西洋系レストランでのフェア

当協会は、鶏卵輸出協議会と連携し、日本産鶏卵の認知が拡大している香港にて、若年層・中高所得層に人気の中高価格帯西洋料理レストランにおける日本産鶏卵を使用したレストランフェアを好立地に位置する ZipZip、The Old Book Store、B'hood の 3 店舗で実施し、盛況のうちに終了しました。

消費者に「西洋料理×日本産鶏卵」という新たな喫食機会を創出・啓蒙・提供し、「日本産鶏卵＝安全・安心、他国料理にも合う」というメッセージを伝え、西洋風をテーマにしたスタイリッシュなレストランで、おしゃれな雰囲気の中、アラカルト、メイン、デザートを含んだ西洋系メニューを展開しています。定番の西洋料理をベースに、食材の魅力が伝わる料理を数多く提供するのはもちろんのこと、来店客が食事を楽しむだけでなく、写真を撮影し、SNS で発信したくなるようなメニューの開発に取り組んでいるほか、店舗も SNS での積極的な発信・集客に努めており、若年層・中高所得層を中心に多くのファンを獲得しており、日本産鶏卵の認知度アップや使用機会拡大につなげていくものです。

特にペットフレンドリーレストランの ZipZip では、ペット向けメニューも展開し、高所得者層である飼い主へのアプローチにも注力しており、これからの伸びが期待できます。



ZipZip は、アメリカのレトロスタイルをテーマにしたペットフレンドリーレストラン。家族や友人と共にペット連れの来店客が多く、日本産食材を使ったこだわりのメニューを提供。

<https://www.instagram.com/zipziphk/>



The Old Book Store は、おしゃれなイギリス風インテリアが特徴で、家族や友人、同僚と一緒に本格的な西洋料理を楽しめるレストラン。

<https://www.instagram.com/theoldbookstore.hk/>



B'hood は、モダンで洗練された雰囲気の人気レストランバー。西洋料理を中心に、多国籍なエッセンスを取り入れたメニューを提供。

<https://www.instagram.com/bhood.hk/>

【お問い合わせ】 業務第 2 部 Tel : 03-3297-5508



第 9 期家畜防疫互助事業 にご参加を！

申込受付中！

**鳥インフルエンザ発生前に、お早めにお申し込みください。
“単年度制”へ移行されておりますので、毎年度申し込みが必要です。**

10 月に入り、鳥インフルエンザの発生リスクが高まる時期になってまいりました。第 9 期（令和 7 年度）家畜防疫互助基金支援事業（以下互助事業）に未参加の方は、ご参加を検討頂くよう、改めてご案内致します。特に、令和 6 年度にご参加頂いた皆様のうち、令和 7 年度分の参加申込をまだ行っていない場合は、単年度制への移行に伴い、毎年度申し込みが必要となっておりますので、十分ご注意願います。

互助事業は、鳥インフルエンザが万一発生した場合に安心して経営を維持・継続ができるように、生産者が自ら積み立てを行い、発生農場が経営再開までに必要な経費等を相互に支援する仕組みに、国が補助する制度です。鳥インフルエンザは、令和 4 年度、令和 6 年度の大量発生、また 5 年連続の発生となり、「恒常化」のおそれもみられるところです。

日本養鶏協会では、お申し込みを随時受け付けておりますので、万が一に備え、是非、互助事業にご参加いただきますようお願い申し上げます。

○第 9 期家畜防疫互助事業

[04-パンフレット.indd](#)

【お問い合わせ】

業務第 1 部 Tel : 03-3297-5516



中央鶏卵規格取引協議会からのお知らせ

令和 7 年度 鶏卵規格取引研修会を実施しました。

中央鶏卵規格取引協議会は、令和 7 年度鶏卵規格取引研修会を開催しました。この研修会は、鶏卵規格取引要綱（農林水産事務次官通知）第 5 に基づき、鶏卵の格付け責任者（卵重計量責任者）となる方を対象にその資格を得るために開催するものです。

本年は、9 月 5 日（東京：馬事畜産会館）及び 9 月 19 日（京都：JA 京都ビル）の 2 回開催し、全国各地から合計 1 2 0 余名の方が受講され、盛会のうちに終了しました。

研修会には、農林水産省食肉鶏卵課の担当官、消費者庁食品表示課及び同庁表示対策課の担当官、学識経験者及び鶏卵公正取引協議会担当者を講師としてお招きし、それぞれ、

- (1) 鶏卵をめぐる情勢
- (2) 鶏卵の規格と品質
- (3) 卵重計量責任者の役割と重要性
- (4) 食品表示制度の概要及び生鮮食品（鶏卵）の表示
- (5) 景品表示法の基本的な考え方
- (6) 鶏卵の表示に関する決まり

について講義をいただき、鶏卵を取り巻く最新の情報や近時の法令等の変更点も含め、鶏卵の格付け責任者にとっても、資格を得るだけでなく必要不可欠な最新の知識・情報を取得する機会となりました。また、今回から講義内容の再確認を目的とした「確認テスト」を行い、受講者の皆様にとって日常業務における知識の再整理につながれば幸いと考えております。



中央鶏卵規格取引協議会では、来年度も本研修会を開催する予定です。

【お問い合わせ】

中央鶏卵規格取引協議会 事務局（担当：中山、阪本）

TEL：03-3297-5516 FAX：03-3297-5519



配合飼料供給価格の動向

令和 7 年 1 0 ～ 1 2 月期の配合飼料供給価格については、飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、令和 7 年 7 ～ 9 月期に対し、全国全畜種総平均トン当たり約 550 円値下げすることを決定されました。

なお、改定額は、地域別・畜種別・銘柄別に異なります。



単位：円／平均トン（前四半期比較）

区 分	1 ～ 3 月期	4 ～ 6 月期	7 ～ 9 月期	10 ～ 12 月期	年間
令和7年	2,750	-400	-2,200	-550	-400
令和6年	2,800	-4,600	2,200	-4,850	-4,450
令和5年	-1,000	-2,000	-2,000	-2,700	-7,700
令和4年	2,900	4,350	11,400	据え置き	18,650
令和3年	3,900	5,500	4,700	-1,250	12,850

出典：全国農業協同組合連合会（ＪＡ全農）「配合飼料供給価格」

- 令和 7 年 1 0 ～ 1 2 月期の配合飼料供給価格改定について | ＪＡ全農

<https://www.zennoh.or.jp/press/release/2025/106599.html>

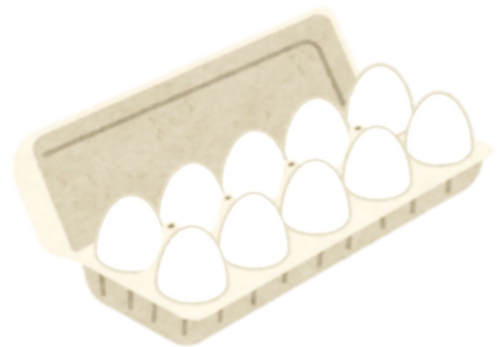


統計データ

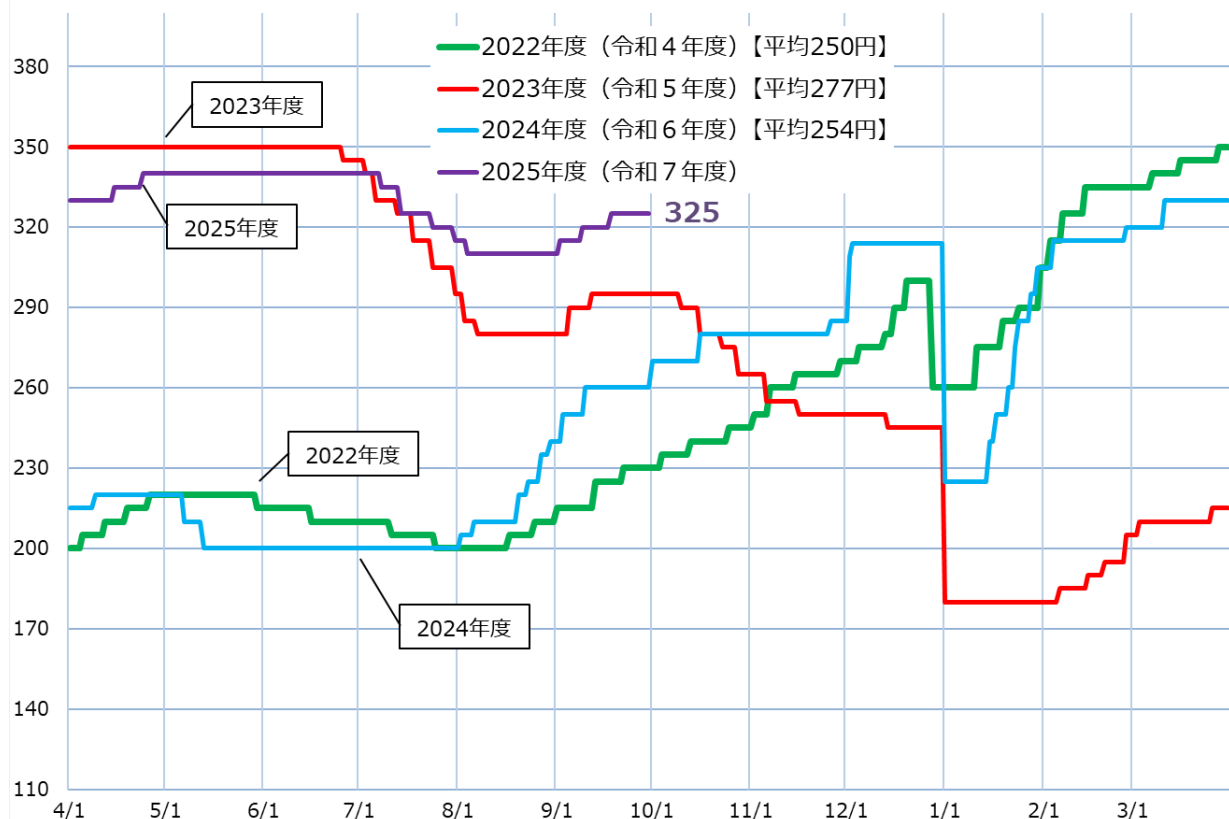
鶏卵相場動向 — 過去 10 年間の 9 月相場 東京全農Mサイズ 円/ kg

	平均値	高値	安値
平成28年	192	218	174
平成29年	194	215	181
平成30年	184	208	174
令和元年	179	218	144
令和2年	153	180	139
令和3年	213	240	204
令和4年	223	252	209
令和5年	292	319	274
令和6年	256	284	234
令和7年	320	350	304
平均値	221	248	204

令和 7 年 9 月の鶏卵相場（東京全農 M サイズ）の高値 350 円は、過去 10 年の平均値 248 円を 102 円上回り、安値 304 円は、過去 10 年の平均値 204 円を 100 円上回っています。



鶏卵相場推移 2022 年度～2025 年度 東京全農Mサイズ 円/ kg



鶏卵相場は 8 月末から価格が上がり、9 月末では 3 2 5 円になりました。



鶏卵関係主要計数 ― 令和 7 年 7 月までの年間の主要計数推移

注：雛餌付羽数は全国推定値

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成 鶏 用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千トン)	前年比★	数量(g)	前年比	前年(円/kg)	本年(円/kg)
8月	7,789	89.6%	434	99.2%	864	100.5%	282	217
9月	7,346	91.2%	426	98.9%	885	104.2%	292	256
10月	8,473	96.3%	484	105.0%	902	101.2%	283	275
11月	7,429	85.7%	471	99.9%	887	101.2%	254	281
12月	8,931	93.2%	510	100.4%	970	102.1%	247	290
7年 1月	8,099	107.3%	460	100.1%	897	99.9%	180	258
2月	8,402	110.1%	432	94.5%	860	96.6%	190	315
3月	8,856	106.4%	468	99.9%	932	100.4%	211	327
4月	8,482	102.4%	473	99.4%	905	103.3%	219	334
5月	8,985	111.7%	470	98.2%	920	98.2%	204	340
6月	7,993	99.2%	441	100.6%	880	97.2%	200	340
7月	9,185	107.5%	453	100.5%	899	107.4%	200	315
1年間合計 平均(%)	99,970	100.1%	5,522	99.7%	10,801	101.0%	230(平均)	296(平均)

- ・雛餌付羽数は、9,185 千羽（前年比 107.5%）となりました。
- ・配合飼料出荷量は、453 千トン（前年比 100.5%）となりました。
- ・鶏卵の家計消費量は、899 グラム（前年比 107.4%）となりました。
- ・鶏卵相場は、前年平均の 115 円高を示しました。
- ・配合飼料出荷量 前年比★は、生産量の前年比となります。

協会活動報告

鶏卵生産者経営安定対策事業 (<http://www.jpa.or.jp/stability/>)

① 価格差補填事業参加者の

契約数量（単位：t）

令和 4 年度	1,794,699
令和 5 年度	1,731,712
令和 6 年度	1,824,242
令和 7 年度	1,784,201

② 標準取引価格

令和 7 年 9 月 326.09 円/kg

③ 令和 7 年度

鶏卵生産者経営安定対策事業の基準価格

補填基準価格 230 円/kg

安定基準価格 207 円/kg

日鶏協ニュース 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目 6 番 16 号 馬事畜産会館内（5 階）

Tel：03-3297-5515 Fax：03-3297-5519 発行日：2025 年 10 月 3 日

編集・発行責任者：石井 馨 (info@jpa.or.jp)